

公助町で備える

町では災害発生時に必要な備蓄を進めています。また機関・企業と応援協定を結び、災害時への備えも行っています

災害に備え、備蓄と連携の強化を

町では、災害時に必要とされる食料、飲料水、生活必需品などの備蓄を進めています。主に役場や生涯学習施設に備蓄されており、27年度は防災倉庫を各小学校に配備しました。

役場で防災を担当する安全安心課の國府田係長は「27年度、町では従来あった備蓄品にプラスして、防災倉庫を各小学校に配備しました。それは、備蓄量を増やす必要性があったこと、そして災害時の避難所の位置を考え、分散備蓄を行うことが目的です。備蓄品があっても住民に届かなければ意味がありません。分

散備蓄を行うことで円滑な輸送ができればと思います」と話します。

この他に、町では災害時応援協定を締結し、必要物資を確保する体制づくりも進めています。

國府田係長は「町では随時、さまざまな機関・企業と災害時における応援協定を結び、協力体制を整えています(締結一覧は下表の通り)。災害時には、町の備蓄品だけでは不足してくる部分が見込まれます。そういった部分は応援協定を結ぶ機関・企業と連携し、災害時に備えています」と話します。

町では今後も、災害に備えて非常用食料などの備蓄を計画的に進めていく予定です。

Interview

町の備えは？

町の防災担当者に聞く



役場安全安心課交通防災係 係長 國府田諭さん



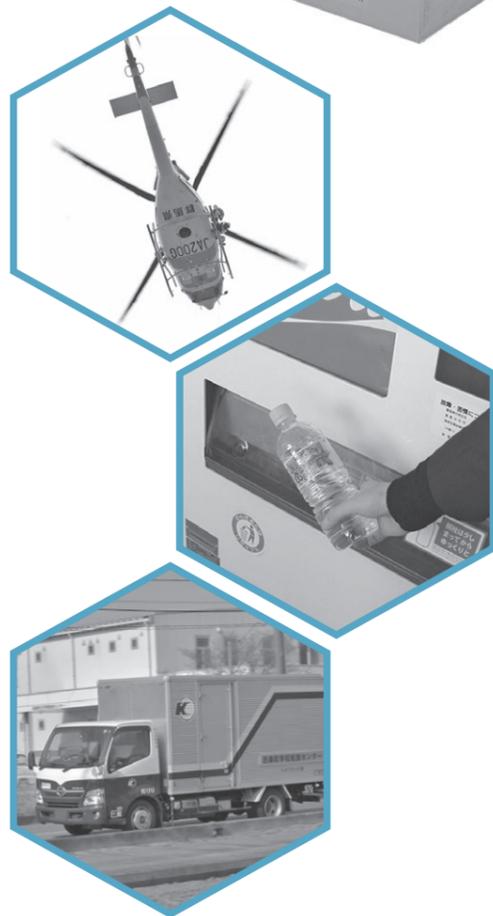
2011年3月11日、国内観測史上最大の地震が発生。あれから5年。あなたは災害発生時に備えていますか？
もしも、災害に遭遇した場合、自分そして家族がどんな危険にさらされ、日常生活がどのように変わってしまうか想像してみてください。自然災害は予測することができません。
今回のマンスリーピックアップでは、防災について考えます。

「もしも」に備える

[Monthly PickUp]

町が結ぶ、災害時応援協定の締結一覧 (平成 28年 2月 1日現在)

締結先	締結内容
大泉警察署	災害時の緊急交通路の確保
館林市・板倉町・明和町・千代田町・大泉町	水道災害時の相互応援
群馬県内各水道事業者	水道災害時の相互応援
群馬県	群馬県防災航空隊による支援出動
コーエイ(株)	災害時におけるレンタル機材の優先供給
NPO 法人 コメリ災害対策センター	災害時における緊急物資の供給
三国コカ・コーラボトリング(株)	災害時における飲料水等の供給
サントリーフーズ(株)	災害時における飲料水等の供給
群馬県建設業協会館林支部	建築物等の災害応急対策
国土交通省関東地方整備局	災害時における各種情報の交換
町内 13 水道事業者	水道施設等の応急復旧工事等
生活協同組合コープぐんま	災害時における緊急物資の供給
ガイドードリンコ(株)	災害時における飲料水等の供給
(株)伊藤園	災害時における飲料水等の供給
(株)カインズ	災害時における緊急物資の供給
館林市・板倉町・明和町・千代田町・大泉町	災害時における相互応援
ヤフー(株)	災害に係る情報発信
群馬県LPガス協会 館林邑楽支部	災害時におけるLPガスの供給
カンダ物流(株)	災害時における物資等の緊急輸送等



②町内でも地震後にガソリンを入れようと大渋滞発生



③赤堀地内の神社の灯籠が崩壊④家のブロック塀が崩れた⑤地震で倒壊した石打地内の寺院の灯籠





防災訓練を通して地域の意識を高める

約2千人が住む十三坊塚・6区。26年度から年に一度、地区での防災訓練を実施しています。1回目は、地区で避難場所を設定して緊急避難訓練などを実施し、約550人が参加。2回目は、起震車による貴重な地震体験や煙道体験などを行いました。

栗田区長は「訓練を実施しても、実際に参加していただかなければ意味がありません。より多くの住民に参加し

ていただくことを意識し、班長さんなどから声掛けをしてもらいました。実際に体験すると見えてくるものがあり、より防災への意識が高まったのではないかと感じています」と話します。

栗田区長は「訓練に参加すると気付くことがあります。実際、煙道体験は初めての人が多かったのか、手で口をふさぐ人がいました。実際は、タオルなどで口をふさがなければなりません。そういったことも体験を通して分かっています」と話します。

今後訓練を継続し、地域の人が防災や助け合いへの意識を高めてもらえればと考えているそうです。

Interview 地域の防災意識は？ 十三坊塚、栗田区長に聞く



十三坊塚・6区 区長 栗田悦久さん



自助 家庭で備える

事前の備えが重要。家族でルール作りから

防災の基本として防災士の丸尾さんは「まず第一に自助が重要です。災害発生後の数分間は、自分自身の安全確保が最優先事項になります。そこがうまくいかなければ共助にもつながりません。災害発生時の行動の仕方を事前に家族で話し合っておくというです。家族でいざというときのルールを決めて、まずはどこに避難するのか、避難場所までのルート、指定避難所、近所の集合場所、共通の連絡先だけでも一度話し合っておくことが災害発生時の迅速な行動につながるそうです。

丸尾さんは「ルールを決めておくことで、家族の安心にもつながります。自分の親戚も阪神淡路大震災では不安になったと言っていました。少しでも不安を取り除いておくことで、自分の安全も守りやすくなってくると思います。そして共通の連絡先は、できれば離れた親戚などにしておくというです。まずは自分や家族の身を守ることを想定して、災害時のシミュレーションをしていくといいそうです。

Interview 自助としての備えは？ 防災士、丸尾さんに聞く



日本防災士会理事 丸尾成人さん(水立大黒・23区)

共助

地域や近所で備える「共助」。町内の自治会でも非常時に備え、防災訓練や体制づくりに取り組んでいます

地域で備える



Interview 地域の体制づくりは？ 新中野、森区長に聞く



新中野・33区 区長 森和男さん

情報伝達の肝は近所の助け合い

新中野33区は、60歳以上の人口が約50%。75歳以上の人も約150人に達している、多くの高齢者を抱える地区となっています。

森区長は「この問題は真剣に考えなければなりません。特に災害時には、高齢者だけでは乗り越えられない問題が多く発生します。そこで各班長さんにお願ひし、災害時に手助けが必要な人をリストアップしていただいています。災害時に近所で手助けができる体制づくりが少しでもできればと考えています」と話します。

一昨年の大雪のときに多くの高齢者が雪かきをするのに大変苦労したようで、それがきっかけとなり今回のような体制をつくらなければと始めたそうです。

森区長は「もちろん地震などの災害時もそうですが、普段から近所の助け合いは重要になってきます。それが災害時の情報伝達に生きてくるのだと思います。今はインターネットなどの情報収集手段が充実し、携帯電話などで緊急情報がすぐ伝わってきます。しかし、高齢者はそういった情報収集手段が使えないという人も少なくないです。だからこそ、高齢者を守るのは近所の人たちの迅速な情報伝達だと思います」と話します。

災害時の迅速な情報伝達を行うため、地域が協力し、災害に備えることが共助の基本となるのかもしれない。

丸尾さんの話から、災害への事前の準備が重要だと分かりました。まずは家族で、簡単なことから準備をしてみたいかがでしょうか

家庭でできる簡単な備え

家族でルールを決めておこう！ わが家の防災マップの準備を

防災マップはあるけど、ほとんど見たことないって人はいませんか？しっかりと見て自分で考えることが防災です。家族で考える時間を取ってみたいかがでしょうか。



家族で決めておく良いこと

- 避難所
- 広域避難場所(町のハザードマップで確認)
- 家族の集合場所
- 連絡方法
- 親戚や知人などの共通連絡先(できれば遠方の人)

非常持ち出し品の例(人数分用意しましょう)

- 飲料水
- 食料品(カップ麺、缶詰、ビスケット、チョコレートなど)
- 救急用品(ばんそうこう、包帯、消毒液、常備薬など)
- ヘルメット、防災頭巾 マスク、軍手
- 懐中電灯 衣類、下着 歯ブラシ
- 携帯ラジオ、予備電池 携帯電話の充電器
- 使い捨てカイロ ウエットティッシュ
- 毛布、タオル 洗面用具 マッチ、ライター

家庭でも最低限の用意をしよう 非常持ち出し袋の準備を



震災から約5年経ち、水などの備えもおそろかになっていませんか？あらためて、自分の家の備蓄品を考えてみたいかがでしょうか

災害発生時 備える